

1	表題名(ふりがな)	白峰伝統的建造物群保存地区(しらみねでんとうてきたてもほぞんちく)		
2	資料名(ふりがな)	白峰伝統的建造物群保存地区(しらみねでんとうてきたてもほぞんちく)		
3	作成者(所属)	小阪大(白山市文化財保護課)		
4	内容分類	地域文化資料		
5	内容細目	施設・建造物		
6	実施年度	令和元年度(2019年度)		
7	地域・場所	石川県白山市白峰地区		
8	検索語(キーワード)	白峰伝統的建造物群保存地区(しらみねでんとうてきたてもほぞんちく)、白峰伝建地区(しらみねでんけんちく)		
9	内容	<p>白峰伝統的建造物群保存地区は、手取川の源流左岸の河岸段丘に位置する。白峰地区は旧白峰村の中心となる集落で、白山の西を流れる手取川沿いに展開する。寒暖の差が激しく、冬期の積雪は2メートルを超える厳しい自然環境にある。白峰地区はかつて牛首と称し、その成立は不詳であるが、史料上は16世紀には成立していたことが確認できる。この地方の主たる産業は、養蚕、製炭および焼畑による畑作である。養蚕の始まりは古く、少なくとも16世紀半ばまでさかのぼると考えられる。保存地区は、東西約230メートル、南北約960メートル、面積約10.7ヘクタールの範囲である。集落は、手取川西岸の細長い河岸段丘上に形成される。敷地が限られていたため、主屋が通りに面して建ち並ぶ特徴ある街路景観を持つ。地区中央部には、社寺および大家が居を構え、これらを囲む石垣が連なり、特徴ある景観を形成する。主屋は、二階建もしくは三階建とする。上層階を養蚕の場とするために、江戸時代からすでに多層階の主屋が普及していた。屋根は切妻造で、年代の古いものは、下屋や軒庇を設けなため、土蔵のようであることが特徴である。二階以上では、柱を半間ごとに立てるために、窓が半間幅の縦長の形状となり、二階には薪の搬入口として使用されたセドと呼ばれる開口部を設ける。また、雪下ろしの作業のために屋根にあがる大はしごが常設されており、特徴的である。さらに外壁は、下地にナルと呼ばれる直径2センチメートルから3センチメートルの木の柱を使用し、非常に厚い。これ</p>		

	10	特色	<p>白山市白峰伝統的建造物群保存地区は、山間部の狭隘な敷地に形成された特色ある集落構成をもち、豪雪という気候風土や養蚕という生業に即して発展成立した地方色豊かな伝統的建造物群がよく残り、厳しい自然環境にある山村集落の歴史的風致をよく残り、我が国にとって価値が高い。</p> <p>市街地全体の伝統的建造物保存地区としての価値が認められ平成24年7月9日に国指定となった。</p>		
	11	提示種類	静止画(JPEG)		
	12	関連資料	「白峰伝統的建造物群」調査報告書(平成23年白山市教育委員会)		
	13	利用分野	デジタルアーカイブ資料、歴史遺産資料		
	14	ファクトデータ			
	15	プロセス			
	16	結果			
	17	記録媒体	静止画(JPEG)		
	18	権利者(連絡先)	白山市文化財保護課		
	19	協力者(連絡先)			
	20	許諾情報			
	21	利用注意			
	22	登録日	2019年12月25日		